さあ，道徳の授業をはじめよう！
～道徳授業の基本と心にひびく工夫～

長崎県教育センター

さあ、道徳の授業をはじめよう！～道徳授業の基本と心にひびく工夫～

長崎県教育センター

さあ，道徳の授業をはじめよう！

～道徳授業の基本と心にひびく工夫～

長崎県教育センター

◆ はじめに

私たちは，本来人間としてよりよく生きたいという願いをもっています。この願いの実現を目指して生きようとするところに道徳が成り立ちます。道徳教育とは，人間が本来もっているこのような願いやよりよい生き方を求め実践する人間の育成を目指し，その基盤となる道徳性を養う教育活動です。言い換えれば，より豊かに生きるための支えとなるものが道徳教育なのです。

今回の道徳教育の改訂では，特に次の３点が改善の基本方針として示されています。

①体験活動等を生かした心に響く道徳教育の実施

②家庭や地域の人々の協力による開かれた道徳教育の充実

③未来へ向けて自らが課題に取り組み，共に考える道徳教育の推進

本手引き書は，こうした趣旨を踏まえ，全教育活動を通して行われる道徳教育はもとより，特に「道徳の時間」に熱い思いを寄せる先生方の一助となることを願って作成しました。

各学校におかれましては，本手引き書を大いに活用していただき，子供たちの夢や希望を育て，心に響く「道徳の時間」が展開されることを願っています。

最後に，本手引き書の作成にかかわり，終始熱心に御協力くださった研究協力校，研究協力員の諸先生方に対し，心から感謝の意を表します。

平成16年3月

長崎県教育センター

所長　兼俵　正行

◆ 手引き書作成にあたり

本手引き書は，長崎県教育センターが平成13年度から３年間にわたり実施してきた「調査研究(道徳)～心にひびき合う道徳授業の改善～」の成果として作成しました。

研究の目的を「道徳教育のかなめである道徳の時間の改善に資する」とし，１年次には，心の教育に関する意識・実態調査を実施して，道徳教育にかかわる課題等を探りました。その中から道徳の時間における授業改善の工夫等を見いだし，２年次の実践研究へとつなぎました。そして，最終年度の３年次は，その成果を手引き書という形にまとめました。

本手引き書では，道徳の授業をはじめるにあたり，基礎的なことから実践のヒントまでを基礎編・応用編で分かりやすく解説しました。またいつでも気軽に手に取り，好きなところから読むことができるようにQ＆A形式でコンパクトにまとめました。

特に，実践編では，実際の授業を基に実践のポイントやメリット，配慮することなどを併記していますので，それぞれの学級の実態に合わせた授業構成の手掛かりとなります。

※本手引き書をいつもそばに置き，大いに活用していただければ幸いです。

目　次

◆ はじめに

◆ 手引き書作成にあたり

第Ⅰ章　基礎編

1　道徳教育の基礎

Q 1「道徳教育」と「道徳の時間」の関係は？ 1
Q 2「道徳的心情」「道徳的判断力」「道徳的実践意欲と態度」「道徳的実践力」とは？ 3
Q 3 道徳教育を支える学級経営の在り方は？ 4
Q 4 校長をはじめ全教師が協力して行う道徳教育のためには？ 5
Q 5 家庭や地域社会との連携のポイントは？ 6

2　道徳の時間の基礎

Q 6 道徳の時間は何をする時間？ 7
Q 7 道徳の時間の基本的な「指導過程」は？ 9
Q 8 効果的な導入のポイントは？ 11
Q 9 展開前段のポイントは？ 12
Q10 展開後段のポイントは？ 13
Q11 効果的な終末のポイントは？ 14
Q12 資料選択及び資料が備えておくべき要件は？ 15
Q13 資料の活用類型は？ 16
Q14 道徳の時間の資料分析の方法は？ 17
Q15 発問の種類と発問構成の基本的な考え方は？ 19
Q16 子供の意見を引き出すためには？ 21
Q17 板書のポイントは？ 23
Q18「心のノート」の効果的な活用方法は？ 25
Q19 道徳の時間の評価は？ 27

第Ⅱ章　応用編

Q20 総合単元的な道徳学習とは？ 31
Q21 体験を生かした道徳の時間とは？ 33

第Ⅲ章　実践編

1　家庭との連携・「心のノート」の活用を図った事例【小２】 37
2　ＴＴ・役割演技の活用を図った事例【小４】 41
3　資料提示の工夫を図った事例【小５】 45
4　自己を見つめる段階の工夫を図った事例【小５】 47
5　家庭との連携を図った事例【中２】 51
6　資料提示の工夫を図った事例【中２】 55
7　立場討議とＴＴの活用を図った事例【中２】 59

◆ *授業実践研究の主な成果* 63

◆ *「道徳の時間」と「道徳性」に関する意識・実態調査の結果から* 65

○ 研究協力員，研究協力校 69

第Ⅰ章　基礎編

Ｑ１　「道徳教育」と「道徳の時間」の関係は？

道徳教育の目標

道徳教育は，豊かな人間性や社会性の基盤となる「豊かな道徳性」を養うことを目標としています。

また，道徳教育は，学校の教育活動全体を通じて行うもので，道徳の時間をはじめとして各教科，特別活動及び総合的な学習の時間(以下「各教科等」という)のそれぞれの特質に応じて，適切な指導を行わなければなりません。

※学校の教育活動を通じて行う道徳教育(留意したいこと)

教 科 で	子供が伸び伸びとかつ真剣に学習に打ち込み，それが効果的に進められるよう留意することや，学級の雰囲気や人間関係が思いやりのある自主的で協力的なものになるように配慮する。
特別活動で	道徳性の育成にかかわる体験を積極的に取り入れ，活動そのものが豊かな道徳的体験の場になるように工夫する。
総合的な学習の時間で	体験活動を通して，あるいは問題解決的な学習を通して，道徳的な心情や判断力，意欲や態度を育て，道徳的価値の自覚を促していくような指導を充実させる。

道徳の時間以外の道徳教育は，具体的な問題に対し，どう対処し，改善するかという直接指導で，生徒指導との関連を密接に図りながら,各教科等の特質に応じた道徳性を養うことが大切です。しかし，このような道徳教育だけでは，断片的で深まりのないものになりがちです。また，指導すべき道徳的価値が偏ったり，不十分になったりすることも考えられます。

こうした部分を補ったり（補充），より深く掘り下げて考えたり（深化），随時行われた指導を関連付けて考え合わせたり（統合）することが必要になります。その役割を果たすのが「道徳の時間」であり，道徳教育のかなめと言われるゆえんです。

補　充
深　化
統　合

(P7のQ6を参照)

そこで，「道徳の時間」における道徳教育を効果的に行うためには，次のようなことを大切にしたいものです。

道徳の時間の指導計画

1　計画的，発展的に指導する。

⑴　道徳的諸価値の全体にわたる指導を行うとともに，子供の実態に応じて重点化した指導も大切です。

⑵　各教育活動と密接な関連を図りながら，指導を行う。

道徳的価値の自覚

2　道徳的価値の自覚を深める。

⑴　資料等をもとに，ねらいとする道徳的価値に「ああ，そうだったのか」と実感を伴って気付くようにする。

⑵　自分なりの価値観を深めていくことを通して，「今までの自分はどうであったか」を見つめ，自己理解を深めるようにする。

⑶　今後の自分の生き方について，「～したい」「～しようという気持ち」をもてるようにする。

道徳的実践力の育成

3　道徳的実践力を育成する。

⑴　徐々に，しかも着実に道徳的実践力を養う。

※道徳的実践や体験活動等を直接行う時間ではない。
内面的資質を高めていく。

⑵　教師の一方的な押しつけにならないようにする。

このように

学校教育全体で子供が行う道徳的実践は，「道徳の時間」において育成する道徳的実践力と相互に響き合って道徳性を高めていくもの

と言うことができます。

Q２　「道徳的心情」「道徳的判断力」「道徳的実践意欲と態度」「道徳的実践力」とは？

道徳教育で育成すべき道徳性は，次の１～３の諸様相をもち，それらは道徳教育の直接的ねらいとなるものです。

道徳的心情

１　道徳的心情

人間としてのよりよい生き方や道徳的価値の大切さを感じ取り，善を行うことを喜びとし，悪を憎む感情。

道徳的判断力

２　道徳的判断力

善悪を判断する能力。人間として生きるために道徳的価値が大切であることを理解し，人間としてどのように対処することが望まれるかを判断する力。

道徳的実践意欲と態度

３　道徳的実践意欲と態度

１，２によって価値があるとされた行動をとろうする傾向性。

道徳的実践意欲は，道徳的価値を実現しようとする意志のはたらきであり，道徳的態度は，それらに裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え。

道徳的実践力

４　道徳的実践力とは

道徳的実践力とは，１，２，３を包括するものであり，実践される道徳的行為の基盤となるもの。様々な場面，状況において，人間としてよりよく生きるためにとるべき最も適切な行為を選択し，実践することが可能となる内面的資質。

道徳的実践力が育つことによってより確かな価値ある道徳的実践ができ，実践を繰り返すことによって，道徳的実践力はさらに強くなっていきます。

Q３　道徳教育を支える学級経営の在り方は？

道徳教育を進める上では，学級における道徳的な雰囲気が大切です。そこで，次のようなことに留意して学級経営を行いたいものです。

道徳的な雰囲気

人間関係

１　学級の人間関係を深める。

子供が道徳性を身に付けていくためには，自分の率直な思いや願いを表現したり，他者のよさを認めたりしていく雰囲気をつくっていくことが大切です。

教師と子供，子供相互においては，尊敬と相互の信頼が基本です。さらに，互いに認め合い，助け合い，励まし合い，学び合う場と機会を積極的に設けていくことが大切です。

基本的な生活習慣

２　基本的な生活習慣の指導を徹底する。

道徳教育では，内面の充実を図るとともに，それが外面に行為となって表れることを期待します。したがって，学級担任は，子供の生活の様子を細かく観察し，基本的な生活習慣の定着を図っていくことが大切です。

環境整備

３　学級の環境を充実させる。

子供が日々目にするものは，心に深く刻み込まれるものです。ですから，環境美化や整理整頓をはじめ，愛校心や郷土愛，向学心などを育てるような作品や様々な学習の成果の展示，学級目標やきまりに関する掲示などを工夫し，適切な環境を整備することが大切です。また，言語環境を整えたり，学級図書を充実させたりすることも重要です。

Ｑ４　校長をはじめ全教師が協力して行う道徳教育のためには？

指導計画の作成と活用

１　全教師が協力して指導計画を作成し，その活用を図ること。

校長が指導力を発揮し，全教師の協力のもとに，道徳教育の全体計画とそれに基づく道徳の時間の年間指導計画及び学級における具体的な指導計画を作成し，その活用を図ることが大切です。

２　指導体制・研修体制の充実を図ること。

指導体制

指導の効果を高めるために，道徳の時間においては，学級担任を中心として，校長や教頭をはじめ他の教師との協力的な指導などによる指導体制の充実が求められています。

研修体制

また，教師の道徳教育に対する認識を深め，実践的な指導力を高めるために，研修体制の確立と研修内容の充実を図ることが必要です。計画的な研修会の開催に加え，日常的に授業を見せ合い，互いに学び合うことが大切です。

ＴＴの工夫

年間指導計画に位置付け，時間割の配慮や指導内容，時期，担当者等を明確にしておくことが大切です。次に，担当者と授業について，綿密な事前の打合せを行いましょう。

＜ＴＴの具体例＞

・１時間の中でグループ活動を仕組み，分担してグループを受け持つ。
・話合いの場面で，多様な意見を複数の教師で演出する。
・各教師の専門性を生かした資料提示をする。
・養護教諭や専科の先生に導入などで話題を提供してもらったり，終末の段階で語ってもらったりする。

Ｑ５　家庭や地域社会との連携のポイントは？

子供の道徳性を豊かにはぐくむには，学校，家庭，地域社会の三者の連携が大切です。そのために学校は道徳教育の方針を家庭や地域に積極的に伝えていくことが必要です。

家庭との連携

１　学校と家庭との連携のポイント

⑴　道徳教育への理解を得ることが大切です。

①　学校便りや学級通信，道徳通信などを活用しましょう。
②　道徳の時間を公開しましょう。
③　保護者会等で道徳教育について，共に学ぶ機会をつくりましょう。

⑵　家庭でも，共に道徳教育を進めてもらうことが大切です。

①　授業や「心のノート」を基に，しつけについて学校と家庭が話し合う場をつくり，同じ姿勢で子供とかかわっていけるようにしましょう。
②　家事の分担等，子供自身が担うべき役割を責任をもって行わせるなど，家庭でも社会性を育てる場を設定してもらいましょう。

地域社会との連携

２　学校と地域社会との連携のポイント

子供は地域の人々とのかかわりを通して様々なことを学んでいきます。地域の施設や人々との触れ合いの場を意図的に設定することが大切です。

①　保護者や地域の人材を活用したり，魅力的な地域教材の開発や活用を試みたりして地域と共に授業をつくりましょう。
②　地域の伝統行事やボランティア活動等へ，子供も保護者も先生も参加しましょう。

Q６　道徳の時間は何をする時間？

道徳の時間の目標

　道徳の時間の目標は，学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の目標をそのまま受け継いでいます。そして，さらに，道徳の時間以外における道徳教育と密接な関連を図りながら，計画的，発展的な指導によって，それらを**補充，深化，統合し，道徳的価値の自覚を深め，道徳的実践力を育成すること**が道徳の時間の中核となるねらいです。(P1のQ1を参照)

　補充，深化，統合を分かりやすく説明すると，次のようになります。

補　充　**補充とは**，学校教育全体で行われている道徳教育の不十分な点を補うことです。

深　化　**深化とは**，道徳的価値についてじっくりと考えることにより，道徳的価値を絞り込んで掘り下げることです。

統　合　**統合とは**，多様な道徳的体験のもつ意味や道徳的価値を関連付けることです。

　子供から見ると，道徳の時間での補充，深化，統合とは，子供が多様な体験の中で感じている道徳的価値を，自分自身の中で調和的に内面化していくことと言うことができます。

道徳の時間

　道徳の時間は，自分なりの価値観を深めていくことを通して，今までの自分はどうであったかを見つめ，生き方を考える，「道徳的実践力」を育てる時間です。

道徳の時間の内容

　私たちは，日々の生活において自分自身や他の人，自然や崇高なもの及び集団や社会などとのかかわりを通して人間としての在り方を自覚し，よりよい生き方を求めています。

　道徳の時間では，これらのかかわりを道徳との関連においてとらえ直し，４つの視点として取り上げています。

４つの視点

４つの視点

１　主として自分自身に関すること

　自己の在り方を自分自身とのかかわりにおいてとらえ，望ましい自己形成を図ることに関するもの

２　主として他の人とのかかわりに関すること

　自己を他の人とのかかわりの中でとらえ，望ましい人間関係の育成を図ることに関するもの

３　主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること

　自己を自然や美しいもの，崇高なものとのかかわりにおいてとらえ，人間としての自覚を深めることに関するもの

４　主として集団や社会とのかかわりに関すること

　自己を様々な社会集団や郷土，国家，国際社会とのかかわりの中でとらえ，国際社会に生きる日本人としての自覚に立ち，平和的で文化的な社会及び国家の成員として必要な道徳性の育成を図ることに関するもの

　これらの視点は，相互に深い関連をもっています。したがって，各学年段階においては，このような関連を考慮しながら，４つの視点に含まれるすべての内容項目について適切に指導することが大切です。

Q７　道徳の時間の基本的な「指導過程」は？

子供一人一人に，ねらいとする道徳的価値の自覚を図るためには，指導過程に次の２つの要件を満たしておく必要があります。

２つの要件

１　２つの要件

第１の要件

精選された事例の資料を基に，子供が既にもっている道徳的価値観を共通の場面を設定して深める。

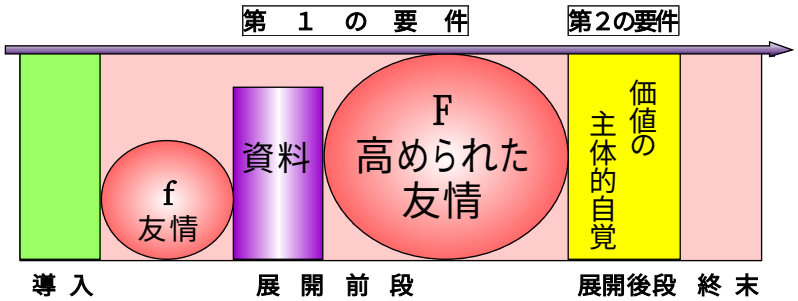
第２の要件

自分なりの道徳的価値観を深めていくことを通して，今までの自分はどうであったかを見つめる。

・授業構想にあたっては，上記の２つの要件を道徳の時間の中心的な学習活動である「展開」に位置付けます。その前後に，価値への方向付けを行う「導入」と，価値を整理しまとめる「終末」をおくと，図１のような指導の流れになります。

指導の流れ

『２つの要件を中心においた指導の流れ(例)』



※友情という道徳的価値を取り上げた場合

(引用:『自己を見つめる』　瀬戸　真　編著　教育開発研究所)

２　基本的な指導過程

指導過程

前頁の２つの要件を中心においた指導の流れを基に，基本的な指導過程を示すと次のようになります。

導入	ねらいとする道徳的価値への方向付け ・これまでの経験を想起する。 ・問題場面を把握する。	導　入
展開前段	資料を基にした，ねらいとする道徳的価値の追求 （共通の資料を使って共通の場で考える） ・主人公の行為とその動機，心情に迫る。 ・多様な価値観（感じ方・考え方）を引き出す。 ・自分なりの道徳的価値観を深める。	展開前段
展開後段	自分自身の問題として考える段階 （資料の場面から，現実の自分へ目を向ける） ・自分なりの道徳的価値観を深めることを通して，今までの自分を振り返る。 ・人間としての在り方を吟味し，生き方を自覚する。	展開後段
終末	ねらいとする道徳的価値の整理・まとめ ・ねらいとする道徳的価値についてまとめる。 ・余韻を残す。（→道徳的価値への関心の持続） ※実践化（行為）への意欲付けを急ぐ指導，決意表明を強いるようなことは避ける。	終　末

【留意点】

上のような形が一般的ですが，子供の実態や学習指導の内容や意図，資料の特質等に応じて，**柔軟に工夫することが大切**です。

Ｑ８　効果的な導入のポイントは？

導入のねらい

１　導入のねらい

主題に対する子供の興味や関心を高め，ねらいの根底にある道徳的価値の自覚に向けて動機付けを図ります。

方法と工夫

２　導入の方法と工夫

⑴　「ねらい」への導入

例えば「思いやり，親切」についての指導であれば，親切にしてもらってうれしかったことや親切にしたときの気持ちなどを問いかけ，ねらいについて想起させます。

⑵　資料への導入

資料の時代背景や場面設定についての理解や登場人物についての補説などによって，子供の生活経験では理解しにくい資料への導入とします。また，資料への期待感を高めたい場合にも有効です。

⑶　学習の雰囲気づくり

音楽を聴いたり，歌を歌ったりして楽しい雰囲気をつくることも効果的です。また，静かに目を閉じて気持ちを落ち着かせてから授業を始めることにより，落ち着いた雰囲気で資料との出会いをさせます。

ポイント

３　ポイント

⑴　短時間（５分以内）で効果的に行います。

⑵　即答できる程度の発問を工夫します。

⑶　展開の部分を見通し，意識や思考の連続を図ります。

※即答できることに流れすぎ，あっさりとして方向付けのできない導入にならないように注意します。

Ｑ９　展開前段のポイントは？

１　展開前段のねらい

展開前段のねらい

資料中の人物に自分を重ねて，その苦悩，葛藤，感動，行為に共感したり，その行為を批判的に検討したりすることを通して価値を追求することです。

２　指導の方法と工夫

方法と工夫

⑴　読み聞かせや朗読，視聴覚教材の活用など，資料に応じて，提示方法を工夫し，子供が資料の内容を深く受け止めることができるようにします。

⑵　役割演技や動作化により登場人物の感じ方や考え方に共感させたり，それぞれの立場からの認識を経験できるようにします。

３　ポイント

ポイント

⑴　資料分析を十分に行う

資料分析を行い，資料のどの部分に焦点を当てるかを明確にしておくことが大切です。

⑵　発問を精選する

ねらいとする価値についての理解や判断，心情などに気付かせ，考えさせ，感じ取らせる２～３の発問に精選します。

⑶　中心発問を吟味する

発問を工夫し，多様な考え方や反応を引き出し，考え方の違いを比べたり，つなげたりできるようにします。

⑷　多様な価値観を引き出す

資料中の主人公に十分に共感したり，主人公の行為を批判的に検討したりして，問題の追求をすることにより，多様な価値観を引き出します。

⑸　一人一人を大切にする

発言を促すとともに，一人一人の思いや考えを大切にすることにより，価値の意欲的な追求を促します。

Ｑ１０　展開後段のポイントは？

展開後段のねらい

1　展開後段のねらい

　展開前段で資料を通して追求・把握した道徳的価値に照らして，今までの自分を見つめ直したり，よりよい生き方を内面から自覚したりすることです。

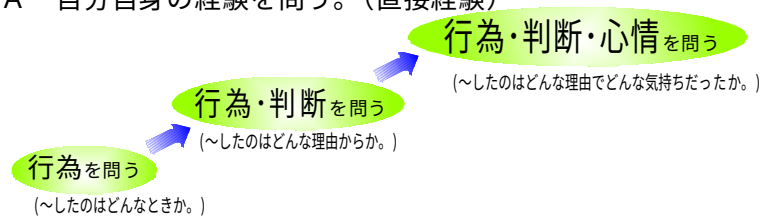
方法と工夫

2　指導の方法と工夫

　ねらいとする価値の追求をしたあとに，資料を離れて，自分自身の行為や経験に目を向け，自分を見つめ直す時間にします。

　そのための発問にはいくつかの類型があります。

Ａ　自分自身の経験を問う。（直接経験）



Ｂ　見たり聞いたりした経験を問う。（間接経験）
　Ａと同様に３つの形態が考えられます。

ポイント

3　ポイント

⑴　価値の一般化として，資料の場面だけに終わらず，様々な場面において，道徳的価値について考えたり感じたりすることも考えられます。

⑵　行為のみを問う発問から行為・判断・心情等を総合的に問う発問まで考えられますが，懺悔をすることや決意表明をすることにならないような注意が必要です。

Ｑ１１　効果的な終末のポイントは？

終末のねらい

1　終末のねらい

　終末では，本時の学習によって子供が感じ，自分のものとしてとらえた価値について整理しまとめを行います。

方法と工夫

2　指導の方法と工夫

　この段階で学習を終わりますから，本時の学習を振り返り，自分なりに受け止め，実践化への意欲をもつことができるような方法を工夫したいものです。

⑴　説　話

　失敗談や心の葛藤，感動したことなど，教師自身のことについて語ることは子供との人間関係をつくる上でも，また，共に悩み，共に学ぶ姿勢を示す上でも有効です。

⑵　板書による整理

　板書を生かしながら，最後に大切な心のもち方を中心に据えて終末にする方法で，視覚を通して印象付けます。

⑶　補助資料

　意欲化を図るために，子供の生活に密着した資料や子供の感銘や感動を呼び起こす資料を提示する方法です。

・子供の作文を取り上げる。
・先輩や家族からの手紙を紹介する。
・人々の声を録音して紹介する。
・格言，ことわざなどを引用する。

ポイント

3　ポイント

⑴　学習を終えた後の余韻や充実感を大切にします。

⑵　感動的な内容の場合には，余韻をむだにせず，より心情を高めるような工夫をします。

Ｑ１２　資料選択及び資料が備えておくべき要件は？

備えるべき要件

道徳の時間の目標の達成を図り，子供に充実感をもたらすような生き生きとした指導を進めるためには，子供の心に響き，ねらいに迫るための適切な資料を選択しなければなりません。

小・中学校の学習指導要領解説には，資料の具備すべき条件として次のような項目が挙げられています。

ｱ　人間尊重の精神にかなう資料
ｲ　ねらいを達成するのにふさわしい資料
ｳ　児童生徒の興味や関心，発達に応じた資料
ｴ　多様な価値観が引き出され深く考えさせられる資料
ｵ　特定の価値観に偏しない中立的な資料
ｶ　読み物，視聴覚教材などの特質を生かした資料

さらに，道徳的価値の内面的な自覚を深めることができるように，次のような要件を具備する資料を選択したいものです。

ｱ　児童生徒の感性に訴え，感動性の豊かな資料
ｲ　人間の弱さやもろさに向き合い，生きる喜びや勇気を与えられる資料
ｳ　生や死の問題，人間としてよりよく生きることの意味などを深く考えさせられる資料
ｴ　体験活動や日常生活等を振り返り道徳的価値の意義や大切さを考えさせられる資料
ｵ　多様で発展的な学習活動を可能にする資料

自作資料

※自作資料をつくるときに気を付けること

・子供の興味や関心に基づいた資料となっているか。
・多様な価値観を引き出し，思考の深まりが期待できるか。
・ねらいの達成を目指すあまり，教師の価値観が露骨になっていないか。
・著作権に対する配慮も必要です。

Ｑ１３　資料の活用類型は？

活用類型

資料の活用類型とは，資料の活用を図る一つの考え方で，一つの資料を多面的に分析することに役立てたり，ねらいに応じて使い分けをしていこうとするものです。

1　共感的活用

共感的活用

資料の中の主人公（またはその他の人物）の考え方，感じ方に子供一人一人を共感させることによって，現在の自分の価値観に気付かせ自覚を促します。

2　批判的活用

批判的活用

資料中の主人公たちの行為や考え方を子供に批判させ，学級の中で様々な批判を出し合って話し合わせることを通して，道徳的な考え方，感じ方を深めさせます。

3　範例的活用

模範的活用

資料の主人公などが行った道徳的行為を，子供に一つの範例として受け取らせます。

4　感動的活用

感動的活用

資料が子供に深い感銘を与えるものである場合に，一般的な指導過程にとらわれず，子供の感動を特に重視しながらねらいとする価値の把握を図ります。

（青木　孝頼氏による）

Ｑ１４　道徳の時間の資料分析の方法は？

ねらい

１　資料分析のねらい

資料分析は，資料のどの場面を生かして，どういう発問をして，どのように子供たちに教師のねらいとすることや価値についての把握を深めさせていけばよいかを考えるために必要です。

したがって，資料の「どの内容」を，指導過程の「どの段階」に位置付けて，「どんな方法」で使うのが適切かを明らかにしていくことが大切です。

手　順

２　資料分析の手順(含む指導展開への位置付け)

⑴　資料を読み，資料全体を場面ごとにまとめます。

①　時間的経過，場面の変化等で３～４の場面に分けます。

②　大まかに場面の移り変わりが分かる程度にし，短文に，端的にまとめます。

⑵　各場面ごとに登場人物の行為，心の動きを押さえます。

登場人物ごとに，その行動・気持ちを短文（会話文も可）で抜き出し，資料全体を構造的にまとめます。

⑶　主人公の行為，気持ちを支えている価値を調べて，本時のねらいにかかわる中心的な価値・関連価値をはっきりさせます。

中心的な価値

⑷　本時のねらいとする指導内容が含まれている部分（中心的な価値）をとらえ，そこをどう扱い，どこまで価値追求させるか，ねらいや子供の実態に合わせて考えます。

価値の深化

⑸　中心場面に至るまでに押さえたい場面，価値の深化を図りたい場面も調べてはっきりさせます。

⑹　⑷や⑸で検討した場面での指導上の留意点を考えます。

⑺　次に，子供の反応を予想し，発問を考えていきます。

以上，資料の場面展開に即した資料分析の手順について示しました。この方法では，資料の場面展開や，考えたい主人公の心の動きを生かした発問の構想が比較的進めやすくなります。

ところが，この方法のみに頼りすぎたときに，時系列的な発問が繰り返され，場面ごとの登場人物の心の中を問い掛けるだけの平板な授業づくりになる不安も強くなります。時には，主人公の気持ちを抑えるだけの読解的な学習に留まることもあります。

そこで，子供の資料の受け止めやとらえを中心にして押さえる資料分析の方法も考慮に入れる必要があります。

大切なことは，学習のねらいや教師の指導の意図などに合わせて，資料分析の方法を使い分けたり，柔軟に工夫したりすることです。

Ｑ１５　発問の種類と発問構成の基本的な考え方は？

発問には，「中心発問」と「基本発問」，及びそれらを補助するための「補助発問」があります。

基本発問

１　基本発問

中心となる資料を用いて授業を展開していく中で，ねらいを達成するために欠かせない発問が基本発問です。

・子供に問題を意識させるもの
・資料の中から有効な価値を引き出させるためのもの
・資料を通して，自分の在り方を見直すためのもの

中心発問

２　中心発問

中心発問は，基本発問の中でねらいを達成するために特に重要な発問で，資料を扱う際に欠かすことのできない発問です。中心発問によって，子供が自己の心に問いかけ，自己を語らせることにより，多様な価値観を引き出し，道徳的価値の追求や把握へと結びつけることができます。

・自分のこととして考えさせることができるもの
・自己の本音や心情を表出させることができるもの
・建前論や批判意識ばかりでは答えられないもの
・資料の中の文章では答えが出せないもの

補助発問

３　補助発問

発表の行き詰まりを解消し，話合いや思考を活性化させるために，基本発問や中心発問を補ったり，視点を変えて行う発問です。

・事実をはっきりさせるためのもの
・生活経験を問うもの
・何が問題になっているのかを問うもの

発問構成

４　発問構成の基本的な考え方

資料に含まれている道徳的価値の追求や把握のためには，教師の発問が重要な切り口になります。少なくとも次のような点には配慮しておくことが大切です。

○　発問を構成する場合には，中心発問や中心課題となる発問をまず考え，次にそれを生かすためにその前後の発問を考えるという手順が有効です。中心発問では，子供が自分の考えや感じ方を各自自由に出し合えるような発問にすることが大切です。

○　子供の実態を把握，理解した上で，教師自身の考えを明らかにし，道徳的心情，道徳的判断力，道徳的実践意欲と態度のどこに重点を置くのかを明らかにしておきましょう。

○　何を，いつ，どこで，なぜ，どう問うのかを明確にします。

例えば…

※例えば以下のような発問が考えられます。

導入では…

・興味や関心を高める発問　・ねらいにかかわる経験や事実を問う発問　・資料にかかわる発問　等

展開前段では…

・資料中の事実や場面,状況等を問う発問　・感想や考え方，意見，問題点を問う発問　・視点を変えたり，方向付けたりする発問　等

展開後段では…

・ねらいとかかわって，今までの自分を見つめる発問

終末では…

・授業についての感想を問う発問

Ｑ１６　子供の意見を引き出すためには？

学級の雰囲気

１　道徳教育全体にかかわるもの

　子供が自分の考えや思いを自由に発言できる学級の雰囲気や風土といったものがまず必要です。

⑴　日頃から温かな人間関係を大切にした学級経営を行うことが必要です。

⑵　正しいことをしたのにからかわれたり，間違ったときに嘲笑を買ったりするような雰囲気があってはいけません。学級集団のモラルを高めることに日ごろから心掛けることが大切です。

教師の姿勢

⑶　教師自らが，道徳の目標や内容に示されている精神を日ごろの授業や生活の中で実践するように心掛ける必要があります。

⑷　教師自らが，学校や学級の環境美化や整理整頓の工夫に努めることが大切です。

自分を見つめる授業の中で

２　道徳の時間にかかわるもの

　授業の中では，まず子供一人一人が自分自身と向き合う時間をつくることが大切です。資料や発問を通して，子供が自分自身を振り返るきっかけと時間をつくることが，自分なりの意見をもたせることにつながります。このことは，子供の意見を引き出すための必要条件と言えるでしょう。

発問の工夫

⑴　発問の工夫

　子供の意識の流れや疑問を予想した発問，個性的な考えが引き出される発問，心が揺さぶられる発問などを考えることが大切です。また，発問は少なくし，子供に自分を振り返り，考える時間を展開の前段と後段で十分に確保することが大切です。

興味・動機付け

⑵　学習への興味の喚起や動機付け，資料の活用の工夫

　簡単な役割演技をさせたり，実物に触れさせたり，場面絵や写真，調査の結果などを提示したり，新聞記事や作文，日記などを紹介したり，録音やＣＤ，ＶＴＲなどを活用したりすることも子供たちの意見形成に役立ちます。また，低学年では，パネルシアターや影絵，人形，ペープサートなどを使うことも効果的です。(P11のQ8を参照)

資料の活用の工夫

書く活動

⑶　道徳ノート等の工夫

　道徳ノートや「心のノート」，学習シート等に書く活動を取り入れます。そのことにより，子供が自分の考えや思いを見つめ直したり，友達との違いに気付いたりすることで，自分の意見をより確かなものにすることができます。

⑷　その他の工夫

・各教科等の指導で，ねらいとする価値にかかわる内容が出てくる場合,道徳の時間との関連を十分に図った上で指導する。
・ねらいとする価値にかかわる新聞記事，写真，調査資料などの掲示により意欲を高めておく。
・朝の会，帰りの会などで導入を行い，道徳の授業までに自分の考えをまとめさせておく。
・資料が長文の場合は，あらかじめ資料を読ませておく。
・ねらいとする価値にかかわる作文を書かせたり，アンケートを取ったりしておく。

Ｑ１７　板書のポイントは？

目的は

他の教科と同様に，道徳の時間における板書も重要です。また，何のためにその板書をするのかを明確にし，以下の視点を参考にして板書の目的を明確にしておくことも大切です。

流れの明確化

１　思考の流れを明確にするために

ねらいとする価値に触れるまでの主人公の思考の流れを明確にするために，主人公の心の葛藤を矢印で結んで示すなどの工夫をします。

視覚的に訴える

２　興味をひくように

挿絵と文を関連させて書いたり，また，文字を強調したりして，板書の構成を子供の興味をひくように視覚的に工夫することが大切です。

一言で言えば

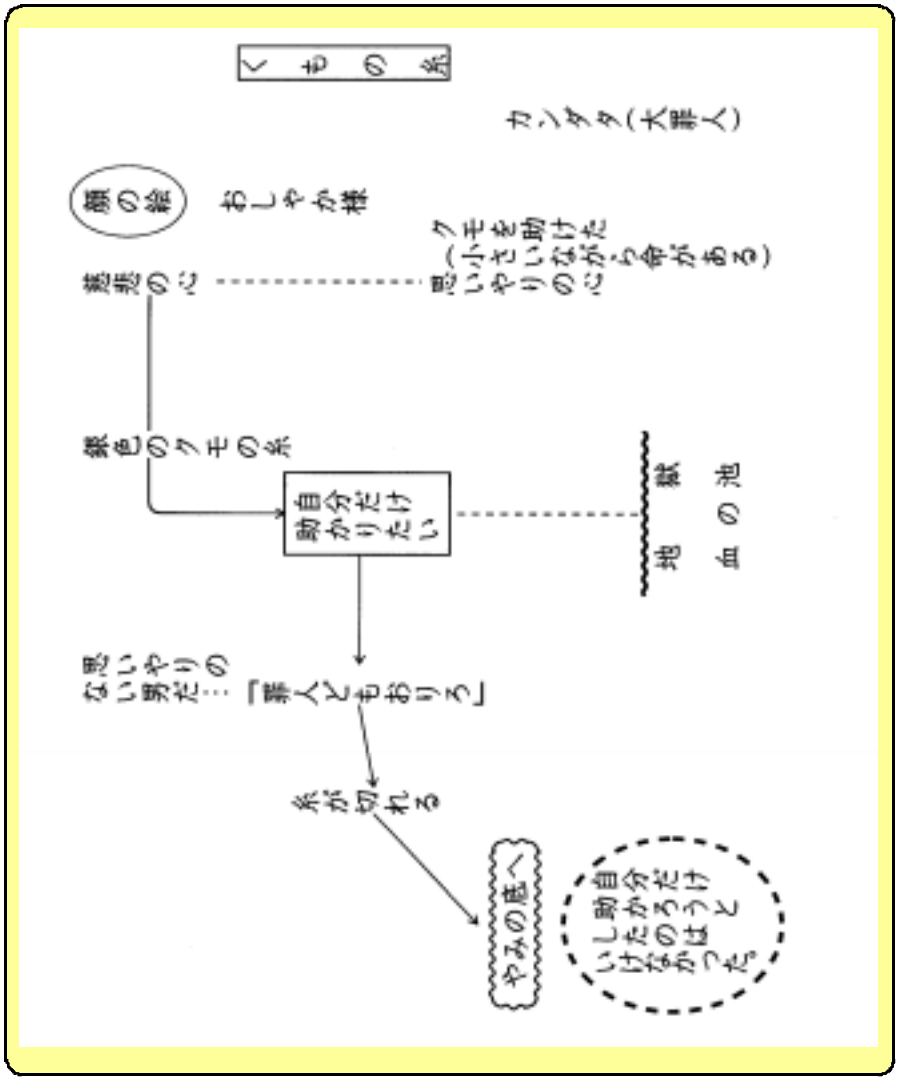
一言で言えば，授業が終了したときに授業のねらいが一目で分かり，子供たち一人一人が，本時の学習を振り返ることができるように十分な板書計画を立て授業に臨むことが大切です。

＊　板書は，出された意見を精選し，構造化したものになるようにすることが大切です。その際には，子供の意見を何より大切にする姿勢をもつことも重要です。そのことが，子供に主体的に参加しているという意識をもたせることにつながります。

※板書例(中学校の場合)

○資　料…「くもの糸」

○ねらい…人間愛・思いやりの心



引用『これからの道徳教育』　瀬戸　真著　教育開発研究所

Ｑ１８　「心のノート」の効果的な活用方法は？

「心のノート」は，教科書や副読本ではありません。

「心のノート」は，子供が道徳的価値について考えるきっかけとなるように願ってつくられたものです。したがって，多様な活用方法を考えましょう。

着眼点

１　活用に導くための５つの着眼点

日常的に

⑴　子供の日常的な活用につながる機会をつくりましょう。

・朝の会や読書タイムで読む。
・帰りの会で「心のノート」を読む日をつくる。
・週末には持ち帰り，家族と話題にする。
・週１回，書き込む時間をつくる。

道徳の時間の一部で

⑵　道徳の時間の一部で見通しをもって用いましょう。

・導入段階の題材として
　イラスト，写真，問題提起文などを用いて，主題への関心を高める。
・補助資料として
　気付きにくい考え方を知るなど内容を深める題材とする。
・体験交流の材料として
　記入時間をつくったり，記入した内容を交流したりして，自覚を深める。
・終末段階の題材として
　メッセージや詩，名言などを題材として，学習したことの明確化を図る。
・事前や事後の関連付けとして
　道徳の時間の事前・事後に，学習につながる投げ掛けや発展的な投げ掛けをする。

※子供の実態や扱う内容等により，中心的な資料として扱う場合も考えられます。

各教科等で

⑶　各教科等の学習の中で適時取り上げてみましょう。

・教科学習
　各教科で，例えば月１～２回ずつ話題にすることで，全体で年間20回程度「心のノート」に触れることになる。
・特別活動
　学級活動の内容⑵や学校行事等の事前・事後に用いることができる。
・総合的な学習の時間
　テーマ探しのヒントや発展的な学習への糸口として役立てられる。

柔軟に

⑷　学校の計画等に柔軟な形で位置付けましょう。

・道徳教育の全体計画に扱いの方針を明記する。
・道徳の時間や年間指導計画の一部に位置付ける。
・学級経営案や学級における指導計画に扱い方を示す。

保護者や地域で

⑸　保護者や地域の人々との共通理解の上で用いましょう。

・子供の活用の様子を学級通信で紹介する。
・保護者会で「心のノート」を開いて話題にする。
・公開授業で用いる。
・地域の掲示板に拡大するなどして掲示する。

留意点

２　活用にあたっての５つの留意点

⑴　子供が自由に用いる環境を用意していますか。
⑵　一人一人が違う「心のノート」になるように援助していますか。
⑶　書き込むだけでなく，書き込んだものを生かしていますか。
⑷　子供のプライバシー等に個別の配慮をしていますか。
⑸　学校と家庭を往復するようにしていますか。

Ｑ１９　道徳の時間の評価は？

評価は一人一人の子供がどのようにそのねらいに迫れたか，どのように変化・変容したかを確かめ，学習指導過程や指導方法を改善するために行います。したがって，改善に役立つ多面的な評価を心掛ける必要があります。

評価の観点
子供の姿

1　評価の観点（様々な視点から評価する）

⑴　子供の姿に関すること

①　子供が道徳の時間を楽しみにし，授業の時間の終わりを惜しむような指導だったか。

②　学習活動に集中していたか。

③　自分の生き方の問題として意欲をもって取り組むことができたか。

学習指導過程
指導の諸方法

⑵　学習指導過程及び指導の諸方法に関すること

①　道徳的価値の自覚を深められるような構成だったか。

・指導過程　・支援の手立て　・発問構成

・個に応じるための手立て

②　心の触れ合いのある授業になっていたか。

③　事前指導，事後指導が有効に機能していたか。

④　特に配慮を要する子供に適切に対応していたか。

方　法

2　評価の方法

⑴　授業者自らによる評価

①　子供の反応及び変化・変容に基づく方法

・日常の観察や記録

・日記や作文での表現

・道徳ノートや学習シートでの表現

・質問紙法(授業前後の自己評価方式のアンケート等)

⑵　他の教師による評価

①　日常の授業の公開

②　研究授業

③　ＴＴにおける教師相互の評価

④　授業記録の分析

⑶　子供自身による評価

①　道徳の時間での相互評価

②　道徳ノート等を活用した自己評価

評価の観点

3　評価の観点

道徳の時間の評価では，授業中の評価ばかりではなく，事前の評価についても大切にします。

⑴　事前の評価の観点例

・授業でねらいとする内容項目と同じ内容項目について，前の道徳の時間の授業ではどうであったか。

・主題にかかわって，どのような体験があるか。
(例)各教科等や学校生活，家庭，地域等での活動

・子供自身が主題にかかわっての自分の感じ方，考え方，行為の現状をどう見ているか。

⑵　授業時の評価の観点例

・学習に主体的に取り組んでいるか。

・特定の子供の発言に偏っていないか。

・子供の考えの真意がくみ取れているか。

・話合いがねらいに向かって深まっているか。

留意点

4　留意点

道徳の時間は，子供の現在及び将来における変化・変容を目指すものです。

⑴　日常的に授業を交流し合い，全教師の共通理解と共通実践のもとに評価を行うことが大切です。

⑵　１か月あるいは１学期間，１年間というような長い期間を視野におき，今後の変化・変容を期待し，見取る視点としてとらえます。

※即時的な変化・変容をねらわないとは言え，ただ見守るだけではなく，同じ価値を他の資料で繰り返し扱ったり，各教科の日常生活で継続的にフォローすることが必要です。

⑶　子供が互いのよさや互いの成長を実感することができるよう，子供自身の自己評価の在り方を工夫・改善していきます。

⑷　評価にこだわりすぎて指導がおろそかにならないようにします。

第Ⅱ章　応用編

Ｑ２０　総合単元的な道徳学習とは？

基本的な考え方

　道徳教育は，本来すべての教育活動を通して行うものであり，各学校では，それらを関連させた道徳教育の全体計画が作成されています。

　しかし，各学級における道徳教育を見た場合，必ずしも各教科等との関連が十分図られているとは言えません。総合単元的な道徳学習を構想することは，学級における道徳教育の全体計画を作成すると言うことができます。

意義の確認

　また，以下に示す総合単元的な道徳学習の意義を確認しておくことも大切です。

・子供主体の道徳学習を展開できます。
・教科や領域における道徳教育を一層充実させることができます。
・道徳的実践力の多面的な育成を図ることができます。

１　単元の構成を工夫しましょう！

　総合単元的な道徳学習の単元構成については，大まかに以下の４つの類型があります。子供の実態や教師の願いに基づいて単元の構成を考えます。

４つの類型

⑴　道徳の時間だけで構成し，重点指導項目を年間複数回繰り返して指導し，より発展的な学習を工夫する形。
⑵　道徳の時間だけで構成し，複数の内容項目を配置し，関連付けて展開する形。
⑶　各教科等と道徳の時間を関連付けて総合単元を構成する形。
⑷　体験活動と道徳の時間の指導を直接結んで，道徳的実践力の育成をさらに深めようとする形。

２　構想を立てましょう！

学級教育目標との関連

⑴　学級教育目標との関連を最重要視します。
　道徳の時間を中核としながら，各教科等，日常生活，家庭，地域社会での学習との関連において，具体的な計画を立てます。

総合主題の設定

⑵　総合主題を設定します。
　道徳教育目標(学校・学年・学級)や子供の実態等を考慮して設定します。ここでは，単元全体を統一する目標をキーワードで表現します。(例　「大切な友達」「優しい心」等)

選択と配列

⑶　総合主題に含まれる道徳的価値について，各教科，道徳の時間，特別活動において関連する学習を選択し，配列します。

課題意識

⑷　総合単元的な道徳学習を貫いて子供にもたせたい課題意識を明確にし，具体的な指導方法や教材・教具等の準備をします。

３　構想図に表してみましょう！

　総合単元的な道徳学習の計画がおおむねできあがったら，構想図に表してみます。

道徳の時間の位置付け

　まず，核となる道徳の時間を位置付けます。そして，次に関連する各教科等を位置付けていきます。その際に，子供の意識の流れを十分考慮し，自然なつながりが出てくるように心掛ける必要があります。

検討の視点

　さらに，構想図ができあがったら，「子供の実態より高すぎるねらいになっていないか」「子供の意識の流れに沿っているか」「子供の主体的な学びが期待できるか」等の視点から十分に検討しなければなりません。

Ｑ２１　体験を生かした道徳の時間とは？

体験を生かした道徳の時間とは，まず，自己の直接体験を支えとする授業のことです。この体験の中に含まれるものとして，日常生活の中の体験，学校行事における「体験的な活動」，総合的な学習の時間における「体験的な学習」，道徳の時間における「模擬体験」や「追体験」等があります。

道徳の時間に子供の体験を生かすには，次のようなとらえ方と工夫点があります。

１　子供の日常体験を道徳の時間に生かします。

そのための工夫として次のようなことに着目します。

資料の工夫

⑴　体験をよりよく生かすことができる資料を活用します。

子供が日常に体験する道徳的な出来事を資料にして用い，話合いの中で深めていきます。子供にとって身近な出来事を題材にしたとき，子供は自分のこととして考え，資料中の人物への共感もしやすくなります。

発問の工夫

⑵　体験を意識できるような発問を工夫します。

導入では，ねらいにかかわる体験を掘り起こしたり，体験的な場面を提示したりして，ねらいとする価値への方向付けをしたり，問題意識を高めたりします。

展開では，子供が自己の日常の体験を資料中の登場人物の行為や心情に重ねて考えられるように発問します。あるいは，ねらいにかかわる各自の学校や家庭，地域などでの体験を思い起こすことを通して，自己の姿を率直に見つめられるようにします。

終末では，子供や教師の印象的な体験を素材にするなどして内容を日常生活に引き寄せて印象的にまとめます。

２　体験活動と道徳の時間の関連を図ります。

体験活動との関連

何よりも大切なことは，関連を図ろうとするそれぞれの教育活動の特色を失わないようにすることです。

⑴　体験活動での体験や追究を道徳の時間の指導に生かします。

体験活動で様々に子供が感じ取り，問題を追究したことにつなげて，主題を押さえた資料を用意して，道徳的価値の自覚を深め，内面化を図る方法です。

⑵　道徳の時間の話合いから，体験活動での体験や追究に広げます。

資料をもとにした話合いを深め，それをきっかけとして，体験活動，集団活動や実践的な活動へとつなげていく方法です。

⑶　体験活動と道徳の時間の指導を同じ時期に進めます。

体験活動を行っている時期に，それにかかわる主題で，中心的な資料を用意し，ねらいを深める時間をもつ方法です。

３　道徳の時間に模擬体験や表現活動等を取り入れます。

模擬体験と表現活動

道徳の時間に子供が実際に動く活動を取り入れることも，広く体験を生かすこととしてとらえることができます。

⑴　役割演技などの表現活動を取り入れます。

役割演技や動作化，劇を生かした活動が，登場人物への実感的な理解や共感を呼び起こすことになります。

⑵　模擬体験や追体験等を取り入れます。

アイマスク体験や車いす体験等の活動を取り入れることによって，子供の実感的な理解を深める効果が期待できます。

4　気を付けたいこと

道徳の時間における体験活動は，道徳的価値の自覚を一層深めるための一つの手段として取り入れるものであり，体験することが目的ではありません。したがって，取り入れる内容や程度等，その方法には十分な検討が大切です。

ディベートやエンカウンターを取り入れる場合も，以下のようなことに留意する必要があります。

ディベート

【ディベート】

・多数決などで一つの結論を導き出すのではなく，一人一人の考えや気持ちを大切にしていきます。
・無理に全員の発言を求めることは避け,他者の声に耳を傾け，各自が自分を見つめることができるようにします。

エンカウンター

【エンカウンター】

・道徳の時間における導入での価値への方向付けや資料を補う一方法として実施します。
・エンカウンターにおける活動の道徳的価値について明確にします。
・活動を取り入れることにより，道徳的価値の自覚がより一層深まるようにします。

第Ⅲ章　実践編

1　家庭との連携・「心のノート」の活用を図った道徳の時間
～資料「あとでーくん」(小２年)の実践を通して～

◎実践のポイント

【家庭との連携の工夫】
○　事前に，保護者会や学級通信などで，道徳の授業のねらいを知らせ,子供の頑張りを認める言葉を手紙に書いてもらいます。
○　授業後，学級通信などで，協力への感謝の気持ちと授業の様子を伝えます。また，「心のノート」を持ち帰らせ，読んでもらえるよう呼び掛けます。

【「心のノート」の活用】
○　資料による話合いの後，自分のことを振り返るとき，「心のノート」をみんなで一緒に見ます。
○　子供が今までの自分の言動を思い起こし，関連ページに書き込みます。
○　時間的な余裕をもって家に持ち帰らせ，保護者に関連ページを見てもらっておきます。その際，それらのページの中に，教師から見た子供の頑張る様子を記述しておきます。
○　授業後も帰りの会や学級会の話合いなどで，記入する機会をつくります。

◇メリット・よさ

【家庭との連携の工夫】
○　保護者会や学級通信で，保護者に授業のねらいを伝えておくことにより，手紙依頼の意図がより明確に伝わります。

○　授業後，持ち帰った「心のノート」を通して，保護者が子供の頑張りを認めたり，褒めたりします。子供の実践化への意欲は，さらに高まります。

【「心のノート」の活用】
○　資料による話合いの後，把握した価値観に照らしてみて，今までの自分はどうだったかを振り返るとき，その視点や手掛かりを「心のノート」の関連ページから見付けることができます。
○　道徳の時間の後に，教科や他の時間を使って同じページに自分の様子を書き込んでいくことにより，何度も自己を見つめることができます。

◆気を付けること

【家庭との連携】
○　道徳の授業や「心のノート」への関心は，家庭によってかなり差があります。また，手紙を書くことに抵抗を感じる保護者もいますので，保護者会や学級通信等で，意義や意図，書き方等の説明を分かりやすくする必要があります。
○　子供には，それぞれの家庭事情があります。そのことへの配慮を欠かさないようにします。

【「心のノート」の活用】
○　子供が関連ページを開いて，そのページに集中して記入していくためには，日頃から「心のノート」を活用し，慣れ親しませておくことが大切です。

◎実践事例

主題「しっかりがんばるのよ」(勤勉，努力) 内容項目1-(2)

資料「あとでーくん」(学習研究社)

過程	学習活動・主な発問・子供の発言や心の動き	教師の手だて・留意点
導入	1　家庭での手伝いについてのアンケート結果を知る。 ○　みんなは，手伝いを頼まれたときに「あとでー」と言いませんか。	・家庭での手伝いの様子を想起させ,「あとでー」という言葉について意識させる。
展開前段	2　資料「あとでーくん」の話を聞いて，話し合う。 ○　どうしていつも「あとでー」と言うのだろう。 ・今いいところだから。 ・お手伝いがめんどくさいから。 ・お母さんがやってくれるから。	・場面絵を提示して読み聞かせることにより，資料の内容や登場人物の気持ちをつかませる。 ・ぼくの気持ちに共感させる。 ・吹き出しに書き込むことにより，全員が同じ視点で考え，自分自身と対話できるようにする。 ・プリントには，考えさせる場面の絵とぼくのはじめの言葉や様子を書いておくことにより，書くことへの抵抗を少なくする。
展開後段	◎「あとでーくん」がどこかへ消えていってしまった後のぼくは,どんな気持ちだろう。 【反省する気持ち】 ・「あとでー」といつも言ったから，お母さんが病気になったんだ。ごめんなさい。 ・お母さんに悪かったなあ。 【お母さんを心配する気持ち】 ・「あとでー」なんてまた言っていたら，お母さんの病気が治らない。 ・早くよくなってね。 【頑張ろうという気持ち】 ・今度はお母さんの分もぼくが一生懸命やるぞ。	・「あとでーくん」が心の中に住んでいたときのぼくと，頑張っているときのぼくの違いを比べさせ，ねらいとする価値に迫らせる。
展開後段	3　今までの自分を振り返る。 ○　どんなことを頑張っているか,「心のノート」に書いてください。 　どうしても「あとでーくん」の言う通りになっている人は，そのことでもいいです。 ・家の手伝いを頑張っている。 ・「あとでー」と言いそうになるときもあるけれど，宿題を先にやっている。	・自分を振り返ることができるような時間を確保する。 ・「心のノート」を活用し，振り返りの手掛かりにさせる。
終末	4　家の人からの手紙を読む。	・保護者からの励ましの手紙を個々に読ませることにより，実践への意欲を高める。

２　ＴＴ・役割演技の活用を図った道徳の時間
～資料「本当の勇気」(小４年)の実践を通して～

◎実践のポイント

【ＴＴによる指導】
○　二人の教師により，多面的に子供とかかわったり，効果的な資料の提示を行います。
・Ｔ１が発問等，授業を進めていく間にＴ２（担任）は机間指導を行い，考えをまとめきれずにいる子供に支援をします。
・資料提示では，Ｔ２（担任）が資料の範読をすると同時に，Ｔ１が挿絵や文カードを提示します。
・意見を発表するとき，Ｔ１は子供を指名し，Ｔ２は板書をします。

【役割演技】
○　登場人物の立場になって役割演技をすることにより，子供の多様な考えを引き出します。
・資料の中の登場人物のせりふを提示し,立場を理解させます。
・数名の子供を指名し，登場人物の顔のお面を着けたそれぞれの人が，せりふを話します。
・自己を振り返る場面ではキーワードを提示し，自分の考えを表出する手掛かりとします。

◇メリット・よさ

【ＴＴによる指導】
　二人で授業することにより，資料の提示や範読等役割を分担することができ，時間的な効率を上げることができます。
　したがって，展開前段での時間短縮と展開後段での時間の確保ができます。
　また，考えをまとめきれずにいる子供や発表の苦手な子供を熟知した担任の的確なアドバイスによって授業が活性化します。

【役割演技】
　役割演技により，登場人物の立場を考えたり，自分と比べたりしながら価値を追求していくことができます。
　役割演技を行うことで資料を身近なものと感じ，より深く価値に迫ることができます。
　また，発表の苦手な子供には発言しやすい雰囲気ができ，活発な授業になります。

◆気を付けること

【ＴＴによる指導】
○　道徳の時間の指導は学級担任が行うことが基本です。そのことを踏まえた上で，道徳的価値の自覚をより深めることができるように,道徳の時間の指導体制を充実していくことが大切です。
　そこで，ＴＴによる指導では，安易に効率化を求めるのではなく，何よりも子供の思いや願いに寄り添い，道徳的価値の自覚を一層促していきたいものです。
○　授業についての事前の十分な打合せが必要です。担任ではない場合,日ごろから学級へ溶け込むようにすることが大切です。
　例えば，専科の授業や授業以外の昼休みの遊び等，積極的にかかわりをもつようにします。そうすることにより，子供が自然に心を開いてくれます。特に心を開き合う道徳の授業では必要なことです。

【役割演技】
○　役割演技がせりふを読むだけのものにならないようにしなければなりません。
○　即興性を大切にし，動作化だけでなく，子供たちの相違を生かします。
○　役割を交代するなど相手の立場を考えることができるようにします。
○　演じる子供だけでなく，それを見ている子供の意識を集中させることが大切です。

◎実践事例

主題「本当の勇気」(勇気) 内容項目1-(4)

資料「なかまはずれ」(学習研究社)

過程	学習活動・主な発問・子供の発言や心の動き	教師の手だて・留意点
導入	1　自分の行いについて振り返る。 ○　よいことをなかなかできない理由は何でしょう。 ・恥ずかしいから。 ・人に何か言われるから。	・本時学習への興味や関心を高める。
展開前段	2　資料「なかまはずれ」を読んで，話し合う。 ○　誘いに乗って投げ始めた年夫は，どんなことを考えていたのでしょうか。 ・みんなもやっている。 ・いけないことだとは思うけど。 ◎　年夫やみんなが面白そうに石を投げるのを見ているとき，明はどんなことを考えたのでしょうか。	T１範読 T２場面絵の提示 ・範読と提示を分担することによって，問題場面を明確にしていく。また，提示した絵や文カードを価値の追求に生かしていく。 T１発問 T２板書と文カードの提示 ・ワークシートを用意してじっくりと考えてから書く活動を行うように助言する。 T１&T２机間指導 ・役割演技を通じて，明の心の揺れを引き出す。 ・多様な考えを引き出し，相互交流を図る。
	・勇気を出してやめるように言おう。 ・言うと仲間外れにされるかな。 ・ぼくは弱虫ではない。 ・みんなもいつかきっと分かるだろう。	・揺れながらも，踏みとどまろうとする明の心情に焦点を当てる。 ・本当の勇気が真の友情を支えることを考えさせる。
展開後段	3　今までの自分を振り返る。 ○　勇気を出して頑張ったときにどんなことを考えていましたか。 ・自分が気持ちよくなるから。 ・相手を大切に考えたいから。 ・自信が湧いてくるから。	・ワークシートを使い，今までの自分を振り返らせる。 ・自分が正しいと思って行動したことを思い出し，より深く自分自身を見つめ直すようにさせる。
終末	4　教師の話を聞く。	・今後の実践意欲につなげる。

3　資料提示の工夫を図った道徳の時間
～資料「美佳子さんのなみだ」(小５年)の実践を通して～

◎実践のポイント

○　教師の語り聞かせによって，子供たちに資料を紹介します。
○　語り聞かせの際には，挿絵や文カードを活用します。
○　ねらいとする価値を追求していく手掛かりとなる「会話」「キーワード」などを文カードや吹き出しにして提示します。

◇メリット・よさ

挿絵や文カードなどを活用して，資料を提示することによって，資料の展開を子供たちがしっかりと把握することができます。
また，本時のねらいや価値に迫る手掛かりになる言葉が提示されているために，焦点を絞った話合いを進めることができます。このことは発問の精選にもつながります。

◆気を付けること

資料の「どの部分を」「どの程度」，挿絵や吹き出し，文カードとして黒板に残しておくかによって，価値の深まりやねらいへの到達の度合いが変わってきます。よって，深い資料分析や的確な子供の実態把握をした上で，資料提示の計画を考えます。また，資料の提示後は，子供たちが「感想」や「疑問」などを自然に発言することができるような「学び創り」も大切です。

◎実践事例

主題「友と共に…」(信頼，友情) 内容項目2-(3)
資料「美佳子さんのなみだ」(光村図書)

過程	学習活動・主な発問・子供の発言や心の動き	教師の手だて・留意点
導入	1　本時の資料に対して関心をもつ。 ○「厳しい□□…」と言えば？ ・厳しい先生　・厳しい友達 ○「厳しい友達」についてどう思いますか？ ・ちょっと苦手。　・優しい方がいい。	・一人一人の考えを認めながら，本時の資料への導入を図っていく。
展開前段	2　資料を聞き，「わたし」の言動についての考えを開き合うことによって，友達としての在り方をとらえる。 ○「わたし」をどう思いますか。 ・「わたし」は言い過ぎると思います。 ・「わたし」は厳し過ぎると思います。 ◎　美佳子さんは迷惑をかけているのだから，「わたし」の言動は当然ではないですか。 ・美佳子さんもわざとではないのだから。 ・仲間だから，励ましたり教えたりすればよかったのに。	・資料の語り聞かせにおいては，挿絵や文カードを効果的に用いていく。 ・中心発問によって，子供たちの考えを揺さぶりながら価値を深めていく。
展開後段	3　友達とのかかわり方において，今までの自分を振り返る。 ○　あなたが，友達と支え合い励まし合おうとしたのは，どんな思いがあったからですか。 ・何となく…。 ・(とにかく) 友達だから。 ・互いに伸びていきたいから。	・ここでは「『支え合い励まし合う友達の在り方』を大切にしている自分自身」を振り返ることができるようにかかわっていく。
終末	4　教師の話を聞き，実践の意欲をもつ。	・学級目標から見た，これまでの学びや生活の中でのよさを語っていく。

4　自己を見つめる段階の工夫を図った道徳の時間
～資料「森の絵」(小５年)の実践を通して～

◎実践のポイント

○　展開後段で自己を見つめるための新たな資料を提示します。
○　資料は，主題に関連した実際の子供の生活の中から選びます。
○　自己を見つめる段階（展開後段）の時間を十分に確保します。

◇メリット・よさ

主題に関連する自分や友達の実際の生活場面の写真・絵等を見ることで，より具体的に振り返ることができます。

◆気を付けること

実際の子供の生活場面の資料（写真や絵等）を見せることによって，子供の思考を資料に示された場面だけに限定してしまうおそれもあるので，使う資料の選択は，子供の実態を踏まえ吟味する必要があります。

自己を見つめる段階（展開後段）の時間を確保するためには，展開前段の発問を絞り込むことも大切です。

◎実践事例

主題「みんなの力で」(社会的役割，責任) 内容項目4-(1)
資料「森の絵」(教育同人社)

過程	学習活動・主な発問・子供の発言や心の動き	教師の手だて・留意点
導入	1　「心のノート」P 72～73を読む。 ○　みなさんは，どんな集団に入っていますか。 ・学級，委員会，クラブ，子供会，社会体育	・この文章や写真等を見ることにより，価値への方向付けをする。
展開前段	2　資料「森の絵」を聞いて話し合う。	・挿絵やキーセンテンス等を提示して，内容把握をしやすいようにする。
	◎　えり子が生き生きと絵の具を溶き始めたとき，心の中でどんなことを思っていたのでしょう。	・学級の一員であることを自覚している様子をつかむ。
	・自分にもやるべきことがある。 ・みんなと一緒に頑張りたい。 ・劇を成功させたい。	
	○　えり子はどうして気持ちを変えていくことができたのでしょうか。 ・ふみおから森の絵を褒められたから。 ・ふみおの頑張っている姿を見たから。 ・ふみおの言葉「だれかがやらないと劇にならないじゃないか」を聞いて，自分のことだけ考えるのはやめようと思ったから。	・えり子の気持ちの変化のきっかけとなった状況やえり子の気持ちに共感させることで，価値に迫らせたい。
展開後段	3　自分の生活を振り返って，自分と集団とのかかわりについて考える。 ○　今までに，役割をきちんと果たしたときや，できなかったときのことと，その気持ちを書いてください。	・学校生活の中から，本主題に関連のある場面の写真を提示し，自己を振り返りやすいようにする。 ・小集団で受け持っている役割を果たせたこと

展開後段	・日直のとき，仕事がきちんとできた。日直って大変だと思ったけど，頑張ったらみんなのためになると思った。 ・委員会で新聞やポスターづくりを最後までやり遂げた。みんなが見てくれると，とてもうれしい。 ・登校班のとき，班長がいなかったので自分が並ばせて連れてきた。班長は並ばせればいいと思っていたけど，実際にやってみると低学年の子を連れて歩くから大変なことが分かった。 ・登校班の集合に遅れて班の人を待たせてしまった。私が班長なのに待たせて本当に悪かったなあと思った。	やできなかったことと，そのときの気持ちを想起させる。
終末	4　自分がかかわっている身近な集団で，周りの人が自分にどのような期待を寄せているかを知る。	・下級生や地域の人からの手紙を紹介することで，自分に対する周りの期待を知り，今後の実践意欲を高める。

◎自己を見つめる段階（展開後段）の実際

活動１（２分間）

「この写真を見てください。」（１枚１枚ゆっくり見せます。）

「何をしているところだと思いますか。」

(委員会活動)

(給食当番)

(清掃活動)

「この写真は，みなさんが，日頃いろいろな役割を頑張っている様子の一部です。」

活動２（７分間）

「今までに頑張って役割をきちんと果たせたときや，もしかしたら果たせなかったときがあると思います。」

「今までに，役割をきちんと果たしたときや，できなかったときのことと，その気持ちを書いてください。」

(机間指導をしながら，どちらについて書いているか記録しておきます。)

活動３（６分間）

「発表してください。」

(できたことを書いた子供を中心に指名します。)

(互いに聞き合うことにより，自分を，より深く見つめることができるようにします。その際には，発表させるねらいからそれることのないように十分な配慮が必要です。)

自己を見つめるための手だてとして，主題にかかわる生活場面の写真を数枚提示しました。

写真を見た子供たちは，その写真に写っているものが何であるかをつぶやき，自分の生活へと思考が向きました。その後，ワークシートに書く際にも，写真の姿をヒントにして，今までの自分を思い描き，自己を十分に見つめることができました。

５　家庭との連携を図った道徳の時間
～資料「いのちの記録」(中2年)の活用を通して～

◎実践のポイント

○　保護者に，資料「いのちの記録」(子供の出生からの成長の記録)の提供をお願いします。
- 学級の保護者会で，主題の「生命の尊重」と，授業の意図等について説明します。
- 保護者会不参加の家庭には，電話や家庭訪問で協力をお願いします。
- 書く内容についての視点や項目等を明確にします。
- 内容が，事前に子供の目に触れないように封をして，担任に提出してもらいます。

○　Ａ君の資料を，展開前段で用います。
- 固有名詞は避け，個人の特定ができないようにします。
- 各子供の「いのちの記録」を展開後段で用います。

○　一人一人に「いのちの記録」を渡します。
- 封筒の表に子供の名前を書き，保護者の記録を一人一人の子供への手紙として届けます。
- ワクワクするような配り方を考えます。

○　子供のその場の感動を感想として残します。
- 子供の感想は，手紙の返事として保護者に戻します。
- その後の保護者会で子供の反応や変容について意見交換をします。

◇メリット・よさ

○　授業の中で，教師の思いばかりでなく，子供に対する親(保護者)の思いも伝えることができます。
○　生命を通した親子のつながりや，子供に対する計り知れない愛情の深さを感じさせることができます。また，子供の成長過程で，親がどれだけの思いを寄せて生命を大切にはぐくんできたかを伝えることができます。
○　今までの自分の成長を振り返り，「自己の生命」に向き合わせることを通して，周りの人に感謝する機会をもたせることができます。
○　本授業後には，助産師をＧＴとして招き，生命尊重についての授業を行うなど，総合単元的な扱いをすることにより，一層効果的な道徳教育が展開できます。また，性教育との関連を図っていくことで一層の広がりが期待でき，発展的に扱うことができます。

◆気を付けること

- 人権やプライバシーに関することが多いので，保護者会等の場を通して目的を説明し，十分な理解と協力を得る必要があります。
- 一人一人の家庭環境を十分に把握しておき，子供たちに寂しい思いや悲しい思いを感じさせることのないような配慮が必要です。
- 子供の実際の資料を授業で用いる場合には，本人はもとより，保護者には事前に趣旨を理解していただき，了解を得ることを忘れてはいけません。

※資料内容の項目
- 私が生まれたときのこと。また，生まれるまでの苦労話
- 生年月日，身長，体重
- 小学校に入学するまでのこと。特にうれしかったこと，心配したこと，エピソードなど
- 保護者の期待や願い(どんな人に成長してほしいか等)
- 私の感想，想い

◎実践事例

主題「生命の尊重」(生命尊重) 内容項目3-(2)

資料「いのちの記録」(保護者直筆による資料)

過程	学習活動・主な発問・子供の発言や心の動き	教師の手だて・留意点
導入	1　胎児の「心音」を聞き，感じたことを発表する。 ○　おなかの中にいる胎児の「心音」を初めて聞いたお母さんはどんな気持ちでしょうか。 ・うれしくてたまらない。 ・期待が大きいが不安もある。 ・生まれてくるのが楽しみだ。 ・このまま元気に生まれてほしい。	・あらかじめ「心音」を録音したテープを準備する。 ・お母さんの気持ちをイメージさせ，本時の意識付けを図る。
展開前段	2　A君の「いのちの記録」を読み，考える。 ◎　A君のお母さんは，なぜこんなに子供を大切にできるんだろう。 ・苦しい思いをして産んだから。 ・子供を育てるのは親の務めだから。 ・自分の子供は可愛いから。 ・辛いことも多いが，子供の成長がうれしいから。 ・自分が守ってやらないと子供は生きていけないから。 ・愛があるから。	・まず黙読させ，続いて教師が範読する。 ・日常の子供のささいな行動にも保護者の喜びがあることを感じ取らせたい。 ・保護者の愛情と責任感に守られて生かされていることに気付かせる。
展開後段	3　自分の「いのちの記録」を読み，感じたことを書く。 ○　保護者が書いてくださった「いのちの記録」を読み，感じたことや今の想いを書いてみよう。	・封筒に入った子供一人一人の「いのちの記録」を渡す。その際，この記録が書かれた経緯を話す。 ・静かに読む時間をとる。

	・知っていることも多かったが，親の気持ちは初めて知った。 ・親がこんなに自分のことを考えているなんて知らなかった。 ・ほとんど覚えていないが，こんなに親に苦労をかけたなんて思わなかった。 ・こんなに思ってくれてありがとう。 ・いつも反抗ばかりして家族とあまり話さなかったと反省した。 ・これから親の期待に応えられるように頑張りたい。 ・改めて自分の命の重さを感じた。	・保護者の愛情や，人間として豊かに生きてほしいという期待を感じ取らせたい。 ・保護者に対する今までの自分の対応や言動を振り返らせる。 ・机間指導で子供の意見をつかみ，発表の際の参考にする。
終末	4　教師の体験談を聞く。	・へその緒を示しながら「大切な命のリレーの鎖」で一人一人が結ばれていることを伝える。 ・自己の命と同じようにして生まれたたくさんの命があり，家族があることを伝える。

6　資料提示の工夫を図った道徳の時間
～資料「カーテンの向こう」(中2年)の実践を通して～

◎実践のポイント

○　資料に入る前の雰囲気づくり
・資料の状況設定を教師が語り聞かせます。

○　視覚に訴えるものの準備
・小さなカーテン（本物のカーテン生地）とレンガの壁（紙に描いたもの）を準備します。

○　結末を“見せる”工夫
・最初からすべて提示せず，結末を伏せます。
・資料提示の最後に実際の場面通りに結末を“見せ”ます。

○　考える時間の確保
・発問をした後は，ゆっくり時間をとって，じっくり考えさせます。

◇メリット・よさ

○　小さなカーテンとレンガの壁（紙に描いたもの）を黒板の中央に掲示して授業を行います。
　これにより，授業が始まる前の準備をしている段階から，子供が「何だろう？」と大変興味をもちます。

○　導入時には，教室を病室に見立て，資料冒頭部分の状況を語り聞かせることで，雰囲気づくりを行います。また，教師がポイントを押さえて状況を話して聞かせます。
　これにより，子供の理解も深まるとともに登場人物の心情理解にも役立ちます。

○　資料提示の際には，結末の２行は載せずに，資料のポイントを押さえた後に，実際の場面通りにカーテンを開いてレンガの壁を見せます。その後，結末の２行は黒板に掲示します。
　このように，結末を最初から示さずに，最後に明かすことで，資料中の「私」と同じ気持ちで最後まで読み進めていくことができます。
　以上のような資料提示の工夫により，資料の内容理解が深まります。また，中心発問にすぐに入ることができるので，主題にかかわる内容を考えていく時間を十分に確保することができます。

◆気を付けること

○　導入時の雰囲気づくり
・資料分析を十分に行い，教師自身が資料のよさを見付け，浸ることも大切です。その上で，導入の工夫をしたいものです。

○　資料提示の工夫
・資料の提示のタイミングや，特に結末の“カーテンの向こう”を効果的に見せることが大事です。

◎実践事例

主題「人間の気高さ・喜びのある生き方」(人間愛，生きる喜び) 内容項目3-(3)

資料「カーテンの向こう」(教育出版社)

過程	学習活動・主な発問・子供の発言や心の動き	教師の手だて・留意点
導入	1　カーテンを準備し，資料の冒頭部分を簡単に説明する。	・すぐに資料に入るのではなく，教師が説明することで，子供に興味をもたせる。
展開	2　資料を読み，結末の「私」の気持ちを考える。	・結末の場面(結末２行)を伏せた資料プリントを配布する。 ・最後に，準備しておいた，カーテンの向こうの“冷たいレンガの壁”を子供に見せる。
	◎　カーテンの向こうを見たとき，「私」はどんなことを考えたでしょうか。	・ヤコブの行為の気高さや美しさを押さえる。 ・「私」の弱さや醜さを押さえる。
	・ヤコブは辛かっただろうと思う。 ・みんなを楽しませるために，辛いのに外の様子を話していたんだろうと思った。 ・ヤコブの気持ちも知らないで，自分はなんてひどいことを考えていたんだろう。	・「私」にも弱さや醜さだけでなく，気高さがあることを押さえる。
	3　結末後の「私」の行動を考える。 ○　「私」はこの後どうすると思いますか？また，それはなぜですか？	・誇りある生き方，夢や希望など喜びのある生き方をしたいという気持ちを押さえる。 ・子供の考えを大事に扱う。
	・ヤコブのように外の様子をみんなに話す。 (ヤコブのように，みんなに希望を与えたいから)	
展開	・ヤコブの行動をみんなに話す。 (ヤコブのしたことをみんなに知ってもらいたいから) 4　ニコルに窓の外を見せてあげたと仮定して，せりふを考える。 ○　ニコルに窓の外を見せてあげたとします。ニコルは何と言うでしょうか。 ・きれいな景色が見える。 ・いつもの花売り娘が今日もやって来るよ。 ・もう思い残すことはない。 ・窓の外はレンガの壁だ。ヤコブは私たちを楽しませようとして，外の様子を話してくれていたんだよ。	・プリントを配布して，吹き出しの中にせりふを書かせる。 ・子供の考えを大事に扱う。 ・机間指導により子供の考えをつかみ，意図的に指名する。
終末	5　教師の話を聞く。 ○　ガンジーの言葉の紹介 「報いを求めない奉仕は，他人を幸福にするのみならず，我々自身をも幸福にする」	・本時の主題（人間の気高さや喜びのある生き方）を確認する。

7　立場討議とＴＴの活用を図った道徳の時間
～資料「車いすの少年」(中２年)の実践を通して～

◎実践のポイント

【立場討議】
　資料に含まれる行動判断や心情判断の場面において，登場人物に自分を置き換えて，自分ならどうするか意見をもち，その判断理由について立場討議をします。
(流れ)
１　資料から立場の内容を明らかにします。
２　どの立場か選択し，自分のネームプレートを黒板に貼り，自分の考えを学級全員に意思表示し，立場を明確にさせておきます。
３　判断の理由を立場討議します。
４　自己主張だけでなく，他人の意見も受け入れる討議を通じて，表面的な利害関係だけで判断するのではなく，総合的な判断の基に再度自己に問いかけることができるようにします。
５　道徳的価値を教えこむのではなく，道徳的思考や道徳的判断力を育てます。

【ＴＴの活用】
　複数の教師による支援・援助をすることで，より効果的に道徳的実践力を養う授業展開を図ります。
(例)
○　資料提示
　　Ｔ1が資料の読み聞かせをすると同時に，Ｔ2があらすじのポイントを板書していきます。
○　子供観察
　　Ｔ1，Ｔ2で机間指導を行い，発表させたい意見をもつ子供の情報交換を行い，効果的な指名を行います。
○　終末説話
　　まとめの段階で，T1とT2が説話をし，ねらいとする価値に触れさせます。

◇メリット・よさ

【立場討議】
○　登場人物の心情や価値判断について，自分と比較したり，立場を置き換えることで，道徳的価値に迫りやすくなります。

○　多くの人の考え方に触れることで，「道徳的価値」への理解を深めたり，より確かな行動選択能力の向上を図ったりすることができます。また，人の考えや立場を尊重する態度を育成することができます。

○　ネームプレートを活用し，自分の意思を全体に表明することで，人前で発表するきっかけをつくり，活発な討議ができます。

【ＴＴの活用】
○　授業展開の広がりや子供観察による適切な指名ができるとともに子供の心情にも深まりが見られるようになります。

○　より効果的な資料提示・説話など，内容的に充実した授業展開が可能となります。

◆気を付けること

【立場討議】
○　立場討議においては，子供の意見を尊重するとともに受け止めていく姿勢を大切にします。その際には，中心とする価値に迫るように討議の方向性に十分配慮する必要があります。

○　道徳的な判断ばかりに偏りがちになるので，道徳的価値に照らした道徳的心情を十分深めることができるような配慮が必要となります。

【ＴＴの活用】
○　本時のねらいや展開のポイント等について，事前に十分打合せをしておくことが大切です。

◎実践事例

主題「一人一人を大切にする心」(人間愛，思いやり) 内容項目2-(2)

資料「車いすの少年」(正進社)

過程	学習活動・主な発問・子供の発言や心の動き	教師の手だて・留意点
導入	1　車いすに乗った感想を発表する。 ○　車いすに乗って，どんな感想をもちましたか。	・事前に車いす試乗体験をしておく。 ・車いすを準備しておく。
展開前段	2　資料前半を読み，車いすの車輪が側溝に落ちた後にどういう行動をとるか考える。 ◎　車いすの車輪が側溝に落ちたことに気付いたあなたは，A・Bどちらの行動をとりますか。また，その理由は何ですか。 A押し上げる ・少年が困っているから。 ・まだ子供で，力がないから。 B押し上げない ・まず声をかけて，本人の意思を聞く。 ・自力で解決することが本人にとって大切だから。 3　資料後半を読み，見守った周囲の人々の心情を考える。 ○　どうして，外国の人々は手を出さずに見守り励まし続けたのでしょうか。 ・一人の尊厳ある人間として対応し，自力で解決させたいと思っていた。	・ポイントとなる文や語句を提示しながら読み聞かせていく。(ＴＴ) ・ネームプレートを使用し，意思表示をさせる。 ・ＴＴによる机間指導。 ・互いの意見に触れることで，多様な価値観があることを実感させる。 ・思いやりが含まれる意見を整理しながら，まとめていく。 ・ポイントとなる文や語句を提示しながら読み聞かせていく。(ＴＴ) ・発問に対する子供の考えから，ねらいとする価値に迫らせる。 ・ＴＴによる机間指導

	・障害があっても，状況や本人の意思，自立心を尊重して対応することが大切だと考えた。	
展開後段	4　相手にとって一番よいことはどんなことか，を考え行動した経験について，今までの自分を振り返る。 ・「心のノート」:『思いやり』って…なんだろう？のページを活用する。	・これまでの自分の様子を振り返る時間として十分確保する。 ・単純な喜びや失敗だけでなく，真の思いやりを実感した感情を大切にさせたい。 ・ＴＴによる机間指導。
終末	5　教師の体験談を聞く。	・本時の価値を確認し，より意識化されるような説話とする。(ＴＴ)

◆ 授業実践研究の主な成果

授業実践研究を進めていく中で，次のような成果を見いだすことができました。

発問の精選

1　発問の精選

展開前段が資料の読み取りに終始してしまったり，前段に時間がかかってしまい，展開後段の時間が足りなくなってしまったりする場合があります。これらの問題点を解決するためには，発問の精選が必要です。

一般的に，展開前段で３～４程度の発問を設定することが多いのですが，指導案検討や研究協議の中で次のことが明らかになりました。

基本発問は中心発問を深めるための発問であり，そこで引き出したい子供の考え等は中心発問でも引き出せる場合が多い。つまり，中心発問だけでも十分に子供の考えを深めることができる。

発問は二つ！

そこで，展開前段の発問を絞り，なるべく中心発問一つにし，展開後段の発問と合わせて全部で二つ程度の発問に精選して，授業実践を重ねていきました。

このことによって，上記二つの問題点も解決できました。さらに，子供の考える時間を確保したり，視点を絞って話合いを深めたりすることができ,授業の充実につながりました。

◇　発問を精選し，二つ程度に絞ると効果的！

2　展開後段の工夫

展開前段でせっかく高まった子供の意識が，後段の自己を見つめる段階で急に冷めてしまうことがあります。この問題点を解決するためには，どうしたらよいのでしょうか。

「よく考えてみると，展開前段では資料や発問等様々な工夫をするけれど，展開後段での工夫はあまりしていなかったのではないか」という反省が出されました。

展開後段で資料の活用を！

そこで，展開後段でも「心のノート」等の資料を活用し，自己を見つめる視点を提示するなど，自己の振り返りを充実させる工夫を考え，実践しました。このことによって，展開後段の充実を図ることができました。

◇　展開後段で,「心のノート」等の資料を活用すると有効！

3　基本的な指導過程の重視

体験を生かすために！

学習指導要領では体験活動が重視されています。体験活動を授業に生かす際には，道徳の授業の基本的な指導過程が十分に生かされるように配慮することが大切だということが分かりました。

4　副読本の活用

副読本も大切に!

「よい資料がなかなか見つからない」という声を時々耳にしますが，今回の実践研究で，副読本にはよい資料がたくさんあるという意見が多く出されました。年間35時間の授業をしっかり積み重ねていく上でも，副読本を十分に活用したいものです。

その他に，学級経営の充実や家庭との連携については，道徳教育を進めていく上で不可欠であることを改めて感じました。

学級経営
家庭との連携

◆　「道徳の時間」と「道徳性」に関する意識・実態調査の結果から

道徳の時間の授業改善に資するために，平成13年度に本調査を以下の要領で実施しました。本調査の結果から授業改善の工夫等を見出すことができ，それらを基に平成14年度における授業実践研究に取り組みました。

・目的　心の教育に関する意識・実態調査を実施し，道徳の時間の授業改善に資する。
・内容　１　教師の道徳の時間に関する意識・実態調査(小・中)
　　２　子供の道徳の時間に関する意識・実態調査(小・中)
　　３　道徳性の実態調査（小・中・高）
・対象　小学校５年生：684名　　中学校２年生：671名　　高校２年生：698名
　　小学校教師：269名　　中学校教師：223名
・時期　平成13年9月～10月

１　道徳の時間に関する意識・実態調査

⑴　教師への調査結果

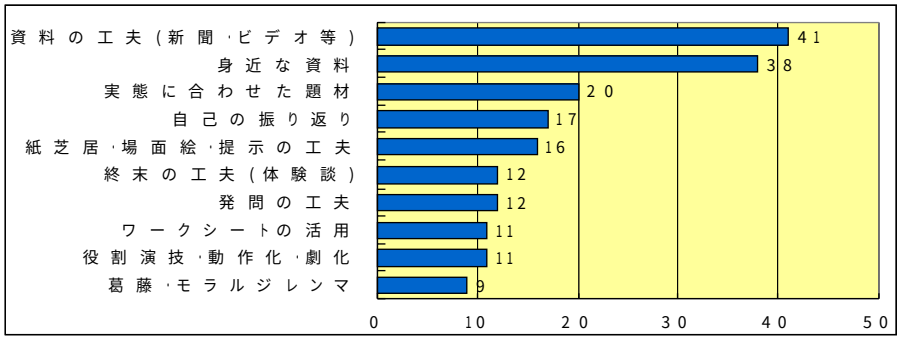
①　悩みは何？

道徳の時間では，「話合いによる高め合いの方法(67%)」や「価値の内面的自覚のさせ方(44%)」等で悩んでいる先生方が多いことが分かりました。(注１)

②　工夫点は何？

工夫点で最も多いのは「資料や題材」の工夫でした。「役割演技」や「自己の振り返り」の工夫など，展開の中での工夫は少ないことが分かりました。

道徳の時間の工夫点は何ですか？(%)



⑵　子供への調査結果

①　道徳の時間は大切？

小学校５年生で85%，中学校２年生で70%の子供が「大切」「どちらかと言えば大切」と答えており，大切だと考えている子供が多いことが分かりました。

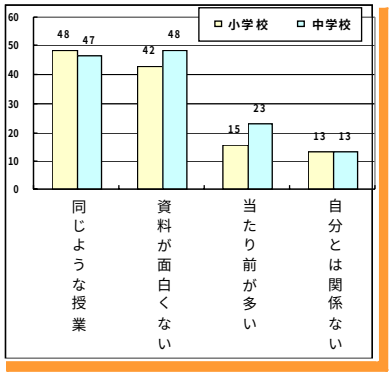
しかし，道徳の時間が「嫌い」「どちらかと言えば嫌い」と答えた子供が小学校５年生で22%，中学校２年生で42%いました。

②　どんな道徳の時間がよい？

道徳の時間を嫌いな理由については，「同じような授業だから」「資料が面白くないから」という回答が多くありました。

また，どんな授業をしてほしいかという質問では，「劇などの活動を取り入れた授業」や「先生の経験や考えなどを話してもらう時間のある授業」という意見が特に多くありました。

道徳の時間を嫌いな理由(%)



⑶　授業改善のために

教師と子供への調査結果から，授業改善の工夫として次の２点が挙げられます。

１　道徳授業の基本的な指導過程の在り方を踏まえ，話合いによる高め合いや自己を見つめる場面の工夫が望まれる。

２　資料提示の工夫や劇・役割演技などの活動を取り入れたり，体験を生かしたりするなどの多様な展開の工夫が望まれる。

(注１)　本手引き書では，展開の後段を「価値の自覚」と表現していますが，実施したアンケートでは「価値の内面的自覚」としたので，そのままの表現で記述しています。

2　「道徳性」の実態調査

⑴　「道徳性」の調査結果

第16期中教審答申の「生きる力」の核となる「豊かな人間性」の次の６項目について，それぞれ２問ずつ問題を作成し合計12問設定しました。また，各問において「判断」と「心情」の両面から調査しました。

①感動･感性　　②正義感･公正さ　　③生命･人権尊重
④思いやり･社会貢献　　⑤自立心･責任感　　⑥共生･寛容

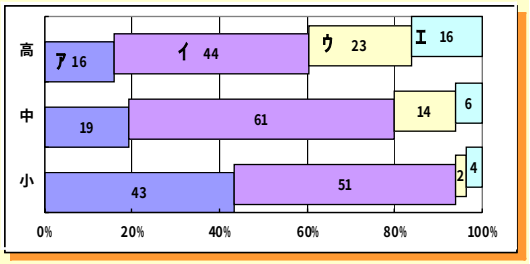
具体的には，次のような設問をつくりました。

【「正義感」に関する設問と結果】

「A子さんは，テストのとき，とても仲良しのB子さんがA子さんの答を見ているのに気が付きました。」

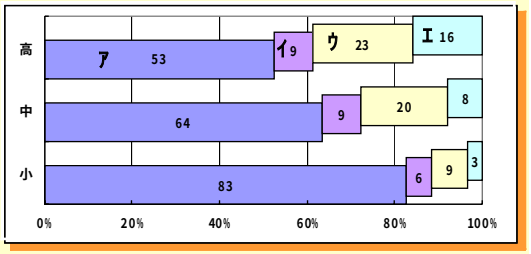
問１(判断) A子さんはどうすると思いますか。

ア　首を横にふって「だめ」というサインを送ると思う。
イ　黙って答をかくすと思う。
ウ　気付かないふりをすると思う。
エ　少しだけ見せると思う。



問２(心情) それはなぜですか。(どんな気持ちがあるからですか。)

ア　答を見るのはいけないことだから。
イ　他の人に分かって，自分が見せていると思われるといやだから。
ウ　B子さんと気まずくなったらいやだから。
エ　自分も見せてほしいときがあるから。



※アイウエの順に道徳性の判断や心情が低くなります。なお，実際の調査では，選択肢の順序を入れ替えています。

①　道徳性変容の一つの段階

前述の「正義感」に関する調査結果のグラフを見ると，「正義感」に関しては，「判断」「心情」ともに小・中・高校の順に下降していることが分かります。同じように，「公正さ」や「生命尊重」の項目でも順に下降していました。このことから，子供が年齢に伴ってより妥協的になってきている様子がうかがえます。

また，小学校から中学校にかけて下降し，中学校から高等学校にかけては変化しない項目が多くありました。「感動」「感性」「思いやり」「社会貢献」「自立心」「共生」の項目です。このことから，小学校５年生から中学校２年生にかけて道徳性変容の一つの段階があると考えられます。

②　「気持ちはあるけど，できない」

前項の二つのグラフを比較すると，「心情」より「判断」が低くなっていることが分かります。同じような傾向が「感性」「思いやり」「責任感」の項目でもありました。このことから，「気持ちはあるけど，できない」傾向があることが分かります。

逆に，「判断」より「心情」が低くなっている項目は「共生」や「人権」で，これらは同年代における他とのかかわりが強い設問でした。「他と気まずくなりたくない」という気持ちが強く，「判断」が高くなったと考えられます。

⑵　授業改善のために

「道徳性」に関する調査結果から，授業改善の工夫として次の２点を考えました。

１　より現実的な感覚を重視するとともに，「気持ちはあるけど，できない」という人間の弱さや，それを乗り越えようとする強さに共感的に迫っていく工夫が望まれる。

２　子供は級友など他の人との人間関係に影響されることに留意し，常に他との関係を意識しながら指導を工夫していくことが望まれる。

研究協力員

有谷　孝彦	諫早市教育委員会指導主事 (前　諫早市立上諫早小学校教諭)	平成 13 年度
村里　靖	吾妻町立吾妻中学校教諭	平成 13 年度
一瀬　敦子	県立川棚高等学校教諭	平成 13 年度
鍵本　誉洋	東彼杵町立彼杵小学校教諭 (前　大村市立大村小学校教諭)	平成14,15年度
髙以良 康弘	飯盛町立飯盛東小学校教諭	平成14,15年度
加古　千波	千々石町立第一小学校教諭	平成14,15年度
小山　義彰	長崎大学教育学部附属小学校教諭	平成14,15年度
尾下　美典	諫早市立西諫早中学校教諭	平成14,15年度
坂上 紀久美	島原市立第三中学校教諭	平成14,15年度
橋口　智秀	大村市立大村中学校教諭	平成14,15年度

研究協力校

諫早市立上諫早小学校	平成 13 年度
吾妻町立吾妻中学校	平成 13 年度
大村市立大村小学校	平成14,15年度
飯盛町立飯盛東小学校	平成14,15年度
千々石町立第一小学校	平成14,15年度
長崎大学教育学部附属小学校	平成14,15年度
諫早市立西諫早中学校	平成14,15年度
島原市立第三中学校	平成14,15年度
大村市立大村中学校	平成14,15年度

さあ，道徳の授業をはじめよう！
～道徳授業の基本と心にひびく工夫～

平成１６年３月発行
編集・発行　長崎県教育センター
〒 856-0834　大村市玖島一丁目２４－２
☎ ０９５７-５３-１１３１